

平成 12 年度第 3 回 OR 企業フォーラム報告

●テーマ：「IT 時代における文化の意義」

講師 大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所 顧問 古館 晋氏

●テーマ：「IT 時代の企業経営」

講師 住友電気工業株式会社 取締役会長 倉内憲孝氏

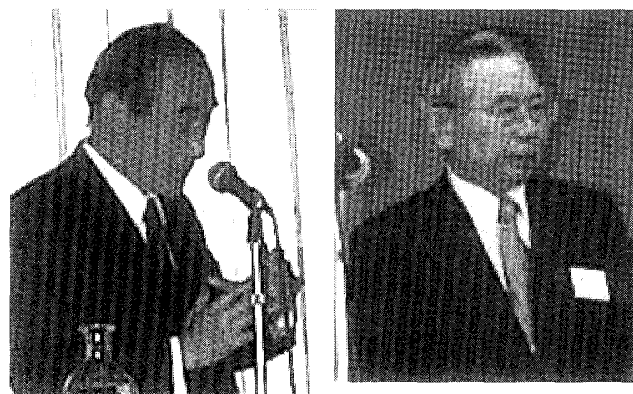
1月24日(水)住友ビル

1月24日(水)に、住友ビル(大阪)において、平成12年度第3回OR企業フォーラムが開催された。関西で初の企業フォーラムということもあり、大学・企業合わせて約50名の多数の参加があった。

長谷川会長の挨拶、田畑関西支部長の司会進行のもと、第1部のゲストスピーカーである古館氏の講演が始まった。

古館氏はリラックスして聞いて欲しいと聴衆の緊張をほぐし、熱く語りだした。講演は「人と人は知識、知恵、情を伝達するが、ITの急激な進歩によって、情の伝達が減殺される恐れがある」という提言から始まった。更に、ミヒヤエル・エンデの童話「モモ」からの引用「効率を求めれば、人間らしい時間を失う」を元に、IT技術の進歩により人間は不幸になるのではという新たな視点からの考えを示され、本来、ITは裏方となり、我々は効率の召使ではなく、主人となる必要があると主張された。そして、日本における文化の創造力の欠乏に対する危機感について述べられ、日本の文化は本来、豊かさのバランスを持っていることをお話になられた。最後に、「ITに支えられて、すばらしい都市、すばらしい生き方を達成できるか」ということが我々の課題であることを述べられ、この講演を通して、文化という高い視点から見たITの在り方に対して様々な提言をされた。古館氏は日経新聞「あすへの話題」や大阪新聞「悠々と生きる」等のコラムを執筆しておられ、これらのコラムは資料として紹介された。我々が普段忘れがちになる技術の本来の目的や使命を再認識させる、非常に有意義な講演だった。

続いて、10分の休憩を挟み、第2部の倉内氏の講演が始まった。最初は約20分の住友電工の紹介ビデオが上映された。ビデオは社会を支える様々な技術が住友電工によって作られているという内容だった。ビデオ上映後の講演はまず、住友電工の多角化の経緯に



講演される両氏(左:古館氏,右:倉内氏)

ついて述べられた。住友電工は1897年に裸銅線の製造にて創業してから、時代のニーズと共に光ファイバーを代表とする様々な多角化事業を次々と展開しているとのことだった。続いて、光ファイバーの開発の経緯をご自身の経験をもとに語られた。特に、光ファイバーの登場により、銅から石英へとケーブルの材料が変化し、電線メーカーの仕事が減少するという危機感から、光ファイバーの研究開発に取り組み、現在は、光ファイバーの売上げが1500億円まで成長したというお話が印象的だった。最後に、90年代の事業環境の変化について述べられ、「そもそもIT活用は今に始まったものではないが、技術進歩のスピードが速いため、企業経営を変える必要がある」との見解を示された。ITは手段であり、目的は人が考えるため、結局は人材が必要となることは変わりがなく、経験の蓄積や変化に対する感度アップが重要であることを主張された。今後、若い世代の活用が大切になるというメッセージと共に講演は終わった。

OR企業フォーラムは企業経営者の生の体験談や考え方が伺える極めて貴重な講演を拝聴でき、今後への期待が増すばかりである。

(文責・㈱住友金属システムソリューションズ 数理技術室 岩崎哲也)